

慶應看護同窓会 紅梅會會報



第111号

会長あいさつ

66回生 茶園 美香



丑年を迎え、早くも3か月が過ぎました。昨年は耐えることを余儀なくされた年でしたが、今年は丑年、「丑年はこれから発展する前触れ、芽がでる」という年になるといわれています。耐える努力をした分、今年は、新型コロナウイルス感染症が早期に落ち着き、穏やかな年になることを願ってはじまりました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大は、現在も予断を許さない状況です。医療・福祉に勤務されている方々には、高度の緊張感の中での仕事が約1年間も継続しております。みなさまの頑張りでなんとか医療が維持できています。医療・福祉に従事されているみなさまが重要な役割を担ってくださっていることに敬服し、心から感謝申し上げます。また、やむなく感染された方、ご家族の方にお見舞い申し上げ、早期に回復されますことを願っております。また、令和2年7月豪雨では、広範囲に大きな被害をもたらしました。被害にあわれた会員のみなさまにお見舞い申し上げます。新型コロナウイルス感染症の心配があり復興に時間がかかっていると聞いております。現在はどこまで進んでいるのかと案じております。

さて、今年度の紅梅会役・委員会は、感染予防の観点からZOOMを使つてのWEB会議とメールでのやり取りで進めました。2021年度総会についても細心の注意を払って感染予防対策をたてて開催をすることも考えてみました。しかし、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない、医療職の集団で感染者が出ることは好ましくない、各地から上京することにリスクがあることなどから、2021年も書面総会にすることを決定いたしました。皆様に直接お会い出来ないのは残念ですが、ご理解の上、ご協力下さいませ。毎年開かれる連合三田会大会を今年は10月17日に開催することが予定されています。決まり次第紅梅会ホームページでお知らせします。

昨年6月慶應義塾に対する「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援」¹⁾をお願いいたしました。早速多くの会員の皆様からご協力ありがとうございました。紅梅会は財政的厳しさはありますが、少しでも協力したいと考え紅梅会として100万円を寄付いたしましたのでご報告いたします。この寄付は継続しております。引き続きご協力のほどよろしく願いいたします。

最も新しいビッグなニュースは慶應義塾大学と東京歯科大学との合併です。みなさまはすでに報道でご存知かと思いますが、2020年11月26日の評議員会で決定し、プレスリリースされました。2023年のスタートを目標に協議が進められています。これにより私学で初めての医療系4学部(医学部、看護医療学部、薬学部、歯学部)がそろう。各学部が連携して学際的な研究・教育を推進することにより、健康長寿社会の実現に大きく貢献することが期待されています。

家庭画報²⁾10月号の特集で、「今、この危機を切り開く生き方『福澤諭吉のすすめ』」が掲載されました。慶應義塾の歴史に触れながら、義塾が開講して以来、さまざまな苦難を乗り越えて現在に至っている過程を回顧し、改めて、今のような危機的状況の中での生き方を考える手がかりになると思いました。近所の図書館にいらした時に、ぜひ読んでみてください。

新型コロナウイルス感染症が一日も早く落ち着きますように、そして、みなさまにお会いする時期が早く来ますことを願っております。みなさま、くれぐれも体調に留意してお過ごしくださいませ。

1)「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援」について ①学生に対する「慶應義塾大学修学支援奨学金」、②病院に対する「慶應義塾大学病院医療支援資金」の2種類。詳細は2020年6月に送付した資料又は、慶應義塾のホームページをご覧ください。

2)家庭画報 10月号 P43～P79 世界文化社

第111号の 主な内容

◆大竹政子教授を偲んで	2	◆新入会員の挨拶	9
◆次年度紅梅会総会、研修会のご案内	2	◆コロナ禍の看護医療学部	10
◆連合三田会大会のご案内	2	◆同窓会だより	11
◆2019年度収支決算報告・2020年度予算	3	◆2020年度紅梅会役員・委員	12
◆看護医療学部長の挨拶	4	◆紅梅会事務局よりお知らせ	12
◆慶應義塾大学病院トピックス	5	◆特選塾員募集のお知らせ	12
◆病院のコロナに対する取り組み	6	◆訃報	12
◆コロナ禍で活躍する同窓生	7～9		

大竹政子教授を偲んで

57回生 割田 勝子

大竹政子先生が令和2年12月4日に逝去された報に接し、深く哀悼の意を表します。

先生の数々の業績を今更事新たに申し述べるまでもないと思い、ここでは少しく、在りし日のお姿を偲びたいと存じます。

先生は、慶應病院師長、厚生女子学院主事、慶應看護短期大学教授と常に慶應看護の先導者であられました。それらの偉業が評価され、慶應義塾賞が授与されました。

先生の看護への道は、誕生の瞬間に父上様が「この子は助産師にする」と決めたときから始まったと。それから先、秀でた才能の基盤に、深い人間愛を発揮され、大成された88年だったと存じます。

また、先生の慶應愛は「慶應が白衣を着て歩いている」と語られるほどでした。特筆は、小泉信三先生への尊敬の念が深く命日の墓参を重ねておられました。

さらには、御家族愛が深く晩年は姪御様と暮らした由、幸せな一生だったと存じます。

最後に、先生の数々のご指導に対し、心から感謝を申し上げるとともに、御恩を返すことなく、お別れと

なりましたこととお許しください。いろいろとありがとうございました。

大竹先生は1988～1989年度、2000～2001年度にわたり2期4年を紅梅会会長として貢献してくださいました。

ここに先生の88年の人生に最大の敬意を寄せ、ご冥福をお祈り申し上げます。



〈87年度卒業アルバム〉

次年度紅梅会総会、研修会のお知らせ

新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の国内発生状況を踏まえ、総会は紙面総会とし、同日に開催する予定であった研修会の開催は中止いたします。紙面総会の資料は5月中旬頃にお送りいたします。審議事項に対して承認のハガキの返信をお願いいたします。

連合三田会大会のご案内

2021年連合三田会大会はコロナ禍であっても開催できるよう、コロナ対策とデジタル化で三密を避けた開催の仕組みが検討されています。日程は10月17日(日)が予定されています。

2019年度収支決算報告・2020年度予算

(単位:円)

科目	2019年度予算額	決算額	2020年度予算額
1.事業活動収入			
1)会費収入	3,600,000	1,691,000	3,600,000
(1)終身会費	3,000,000	1,380,000	3,000,000
(2)年会費	600,000	311,000	600,000
2)総会参加費	120,000	165,000	0
3)広告料収入	35,000	15,000	35,000
4)寄付金収入	0	72,254	0
5)雑収入	2,000	1,874	2,000
(1)預金受け取り利息	2,000	1,874	2,000
(2)その他	0	0	0
事業活動収入計	3,757,000	1,945,128	3,637,000

2.事業活動支出			
1)会議費支出	1,142,000	381,943	1,142,000
(1)総会関連費	680,000	208,113	680,000
(2)役委員会関連費	462,000	173,830	462,000
①役・委員会	200,000	125,498	200,000
②編集委員会	100,000	7,672	100,000
③準備委員会	40,000	10,831	40,000
④研修委員会	60,000	7,998	60,000
⑤役員推薦委員会	2,000	0	2,000
⑥ホームページ委員会	60,000	21,831	60,000
2)事業費支出	950,000	865,732	950,000
(1)研修会費	50,000	0	50,000
(2)会報発行費	900,000	865,732	900,000
3)管理費支出	1,240,000	1,131,401	1,230,000
(1)人件費	800,000	849,212	800,000
(2)通信費	180,000	214,646	200,000
(3)消耗品等費	180,000	38,563	180,000
(4)ホームページ業務委託費	80,000	28,980	50,000
4)看護医療学部支援関連費	140,000	87,615	140,000
5)連合三田会関連費	50,000	64,620	50,000
6)予備費	50,000	32,920	60,000
事業活動支出計	3,572,000	2,564,231	3,572,000



看護医療学部長の挨拶

コロナ禍で開設20年を迎えた看護医療学部の現状と課題

看護医療学部長 武田 祐子

2019年秋に学部長に就任し、2020年度紅梅会総会で皆様にお目にかかるという機会を逸したまま、この度のご挨拶となりました。2021年に開設20年となる看護医療学部の発展に、微力ながらも尽くしてまいりたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

この間、世界中が新型コロナウイルス感染症の脅威にさらされ、社会経済の動きも激変し、多くの紅梅会会員の皆様は、医療の現場における山積する課題に果敢に取り組みられてきたことと拝察いたします。

大学教育においてもその影響は大きなものでした。感染拡大の懸念の中、2020年3月に卒業を迎えた学部16回卒業生は、早い時期に謝恩会の中止を決断しました。医療現場への入職を間近に控え、会食の危険性を十分に理解した上での、専門職としての自覚でした。その潔さに感銘すると共に学部として誇りに思っています。共に祝う機会もないまま巣立って行った卒業生と半年後に病院実習で再会し、看護師としての成長に嬉しく頼もしくもありました。

学部教育は、その大半がオンライン・オンデマンド授業で行われ、様々工夫を重ねながらも、対面による授業と同様の目標達成への懸念は免れないものでした。このような授業形態は学生にとってストレスフルなものであり、学部教員が行った調査では睡眠の質・量ともに影響を与えていました。特に新入生は、同級生・教員との面識もないまま、ひたすらパソコン画面上での授業を受けなければならず、11月ようやく基礎看護での演習が学内で行われました。緊張した面持ちで登校しながらも、小グループ演習を行うことで自然に関係性も形成され、キャンパスライフの第一歩を踏み出せたようでした。

そして、何よりも心配されたのが実習でした。外部施設から受け入れ困難と連絡が入る中、大学病院で例年通り受け入れて頂けるという朗報は大きな支えとなりました。一方、市中感染が広がり、感染対策をいかに確実に実行できるのか、学生の不安、教員の負担感が増大する中で、個別の状況把握に



努めながら試行錯誤の積み重ねでありました。

また、学部魅力の一つとされている海外研修科目も、中止せざるを得ない状況でした。科目以外にも、大先輩の青田与志子様のご厚志による奨学制度で活発に行われてきた学生の海外活動も、渡航が叶わない状況においては難しく、ご子息の青田英輔様のご了承を得て海外支援につながる国内活動についても奨学制度が活用できるようにして頂きました。学生の志を維持していく大きな支えを頂いたように思います。

コロナ禍での教育は、これまでのあり方を根底から問い直すきっかけになりました。講義科目や技術演習では、オンデマンドで学生個々のペースで繰り返し視聴できることや、オンライン上での少人数グループディスカッションは、活発で濃密な意見交換ができるといったメリットもありました。また、感染予防として、実習時には学生の課外活動やアルバイトを制約し、自己の行動の振り返りを課したことは、大きな負担となりましたが、人々の健康を守る医療人としての自覚にもつながっていると思います。その中で経済的困難を抱える学生が増えたことも事実であり、新型コロナウイルス感染症の終息にはまだ時間を要する現状において大きな問題となっています。

この1年での経験を糧として、学部の目指す、多様化する課題に立ち向かえる人材育成に努めていきたいと思っております。皆様方の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



〈学内演習〉

コロナ禍での看護と新人教育

看護部長 87回生 加藤 恵里子

2020年、開院100周年の年はコロナ禍となり大変厳しい年となっております。そして奇しくも、フローレンス・ナイチンゲールの生誕200年の節目の年でもあります。彼女が臨床現場で出会った最大の問題は、兵士達の「感染症」でした。そして現在、私たちは新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機に直面しています。当院では院内感染と集団感染が発生し、患者さんをはじめ、多くの皆様に大変なご心配をおかけいたしました。また、その後、陽性患者の受け入れにあたり、温かいメッセージや心遣いをいただきました。紅梅会の皆様からはご寄付もいただき、この場を借りて御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症患者の受け入れは2020年2月から始まりました。感染対策本部を立ち上げ、様々な側面から準備を開始しました。そんな中、3月の院内感染は、新型コロナウイルス感染症の可能性がないと思っていた無症状の患者さんから始まりました。目に見えない連鎖を断ち切るために、発生病棟の看護チームを即座に入れ替えました。更に、続いて発生した研修医の集団感染、孤発で発生してくる陽性患者への対応に追われました。感染リスク低減のため5病棟を閉鎖し、看護チームを勤務者と自宅待機者の2グループ制と対応しました。そして、中等症患者は専用病棟へ、重症患者はICU、HCUで対応してきました。また、専用病棟以外の看護師によるCOVID-19支援チームを結成し、支援に入ってもらい乗り越えてきました。陽性患者の看護に直接携わってきた看護師たちは、不安はありながらも自分たちの使命と認識し、患者に必要な看護を提供することを大切に対応してくれています。担当師長はじめ看護チームの皆さんに心から感謝しております。また、専用病棟以外の看護スタッフたちは、それぞれの部署、自らの役割を認識し看護提供を続けています。更に、

「かからない、持ち込まない、ひろげない」ために、行動を自粛し、長期間にわたり感染拡大に留意した生活を送っています。

一方、今年には124名の新たな仲間を迎えてスタートしました。コロナ禍であったため、新任式、病院職員のオリエンテーションは事前に中止が決まっていました。看護部のオリエンテーションを予定していた4月1日初日は、折しも集団感染の判明日でした。院内での感染拡大が不明のため、新任者の入構を禁止することが緊急早朝会議で決定されました。白衣に着替えてやる気に満ちて病院建物に向かおうとする新人看護師たちは、やむを得ず自宅待機となりました。そして、様々なオリエンテーションは4月3日から分散型で、オンデマンドやオンラインを駆使し実施いたしました。これ以降、集合研修は分散型、少人数制とし、eラーニングを活用するなど、効果を担保し柔軟に対応をしています。また、新人歓迎会や食事ができず、新人看護師が先輩と打ち解けることができる場面や、新人看護師同士で共有する機会が持てない状況となっています。そこで、リフレッシュ研修やストレスマネジメント研修は感染に留意しつつ対面で実施しました。閉塞感のある中ですが、新人看護師たちは自己の立ち位置を確認し、メンバーシップを高めつつあります。

看護医療学部からの臨地実習は厳密な健康管理のもと8月から開始しました。演習や臨地実習の制限による影響が最小限となるように看護部も協力をしております。まだしばらくはコロナ禍での対応が続きます。患者中心の看護を追求し、看護師としての役割を果たすべく、一丸となって精一杯頑張っております。引き続きご支援ご指導の程よろしく願いいたします。



〈新採用者オリエンテーション〉

病院のコロナに対する取り組み

コロナ禍で実感した病院開設100年目の「結末」

病院長 北川 雄光

輝かしい大学病院開院100周年を飾るはずの2020年は、歴史にも記憶にも鮮烈に残る「過酷な」1年になってしまいました。2020年3月29日、季節外れの湿った積雪が満開の桜の上に重くのしかかる様子を複雑な心境で眺めていたことを思い出します。世界中で一気に感染拡大する新型コロナウイルス感染症の波が国内にも押し寄せる中、当院では何とか診療機能を維持しながら凌いでいました。しかし、関連病院からの無症状の患者さんの転院で、その防波堤が脆くも崩れ去ったことを知ったのが3月25日のことでした。今思えばいわゆるスーパープレッダーであったこの患者さんから同室患者さん、病棟の医療従事者に院内感染が発生したのです。加藤恵里子看護部長と一緒に、その病棟のスタッフステーションを訪れた朝のことが今も胸に刻まれています。皆、不安と緊張感を抱きながらも使命感に満ちた素晴らしい目をしていました。徹底的なPCR検査を行い、陰性者であっても待機する初動が結果的にこのクラスターの早期収束につながりました。

3月31日の夕刻に判明した初期臨床研修医の集団感染は、新しい年度の直前であったことが不幸中の幸いでした。人事異動による他施設への感染拡大を食い止めるため、感染制御部、卒後臨床研修センターを中心に皆が夜を徹して連絡して下さる姿が今も目に焼き付いています。当時、これに加えてかかりつけの通院患者さんの市中感染が続発し、当院が全国でも真っ先に始めた入院前PCR検査でも無症状の陽性者が判明する異常事態となっていました。

欧米の医療崩壊の様子を伝える凄まじい映像が報道される中、私は患者さんと教職員をどう守るかを必死で考える毎日でした。そんな中、現場に精通した松田美紀子病院事務局長、加藤恵里子看護部長を中心に極めて迅速に一部の病棟閉鎖と人員再配置、待機者と勤務者の交代システム構築が行われました。優秀な首脳陣の的確な判断と、各部署の師長、主任クラスの協力、COVID-19専門病棟を守る看護チームに加えてこれらを支援する他病棟からの特別看護チームの活躍などで何とかこのピンチを乗り切ることができました。福永興壺病院長補佐を中心として結成されたCOVID-19治療チームは当時全く治療法が確立していない中で、最適な治療を模索しながら奮闘してくれました。

しかし、何と言っても緊張の中で最も活躍して下さったのが、患者さんと最も近いところで仕事をする真の意味での「最前線」の職種である看護部門の皆様です。COVID-19専門病棟においても患者さんに直に接しながら、体も心も優しく包み込むことを求められる職種です。皆様が使命感と勇気を



持って、献身的に頑張ってくださいましたことに心の底から感謝しています。看護業務の尊さ、偉大さをあらためて痛感しました。

4月初旬、研修医集団感染の原因が「禁止されていた会食」であったことが判明し、不名誉な報道で皆様を傷つけてしまったことは責任者として痛恨の極みでした。しかし、この状況の中で、紅梅会の皆様をはじめ慶應義塾社中の皆様が緊急医療支援募金や防護具の提供など物心両面で大変なご支援をくださいました。2020年は私自身の人生の中でも最も過酷な1年となり、未だ予断を許さぬ状況が続いていますが、一方で慶應義塾の温かい結末のありがたさを強く実感した1年でもありました。

今回のコロナ禍に際しまして紅梅会の皆様の多大なるご支援にあらためまして心から御礼を申し上げますとともに、次の100年に向けてこれからも手を携えて歩んでまいりますよう切にお願い申し上げます。本当にありがとうございます。そしてこれからもよろしく願いいたします。



KEIO UNIVERSITY
HOSPITAL
100th ANNIVERSARY

〈コロナに関連した三田評論の記事〉

- ・コロナ危機と大学 P10-57 2020年8月、9月
- ・歴史に見る感染症 P10-55 2020年11月

購買希望時「慶應義塾 三田評論」
連絡先:03-3451-3584

コロナ禍で活躍する同窓生

コロナ禍での海外移動

学1回生 門元 紀子

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう2020年8月、私は家族と共にスウェーデンからジョージア国トビリシに引っ越してきました。コロナの影響で定期航空便も運行されておらず、ジョージアも入国者を制限していたことから、政府の許可を得て航空券が確保できたのは出発3日前でした。到着後2週間の自主隔離生活に備え荷造りをし、ストックホルムの空港での渡航目的の確認、乗り継ぎ便の搭乗許可の確認等を経て、予約便がキャンセルされずに離陸したときにはホッと一息でした。そして、乗り継ぎ地のアムステルダムへ到着後、ジョージア航空の全身真っ白な防護服に手袋・マスク・ゴーグルを着用したフライト・アテンダントに出迎えられた時には再び全身に緊張が走ったのを覚えています。そして、外気温38度にも関わらず空港に出迎えてくれたのも全身防護服を着た運転手でした。当時、ヨーロッパ各地でロックダウンが行われていた中、特に厳しい規制を設けない方針で世界的にも注目を浴びていたスウェーデンから一転、その違いに実際に触れ驚きました。スウェーデンがロックダウンを行わなかった背景には数々の理由がありますが、中でも政府への信頼が高く多くの国民が自主的な外出制限を実施（在宅勤務への移行の速さ）、少しの体調不良で欠勤の場合でも給料保障がされる就労環境、子供の学費権利の保障や虐待防止等が挙げられていました。このようにコロナ対策は保健医療体制だけでなく、それぞれの国民性、文化、生活習慣、社会保障制度なども密接に絡んでいるということを感じました。到着時、ジョージアの感染者は少なかったのですが、ここ最近（12月）は感染者が急増しており、コロナ禍の生活はまだまだ続きます。新生活を楽しみつつ、ワクチンが届くまで気を引き締めて家族で乗り越えていきたいと思っています。皆様もどうぞご自愛ください。



保健所保健師として迎える「コロナ禍」

学8回生 岸下 洸一郎

看護医療学部を卒業し、保健師として働き始めて9年目。現在は埼玉県保健所で感染症担当をしています。

新型コロナウイルス感染症について、保健所では患者さんの健康状態確認や入院・宿泊療養に向けた調整・搬送、家族や接触者の受診・検査対応、陽性患者さんが利用していた施設等の調査、住民からの健康相談などの対応を行なっています。また、クラスターが発生した施設に感染症対策の有識者とともに訪問し、感染拡大防止策に関する支援を行なっています。

保健所保健師は、多くの患者さんやその家族・接触者が最初にアクセスする医療専門職です。これらの方々の不安に寄り添いつつ、患者さんが迅速に必要な医療や療養につながることや、家族や接触者、そしてその周囲の人々への感染拡大を予防すること。これらを確実に、「住民の生命を守る」という保健所の使命を全うできるよう、日々努力しています。



在宅医療事業部

訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所の運営

こんな方は、ぜひ

- 在宅医療、看護に興味がある方
- 子育てや学業と両立して働きたい方

詳細はこちら



交通医療事業部

移動支援プラットフォーム『ドコケア』の運営 スポットで副業したい方、ケアシェアリング事業に関心を持たれた方



詳細はこちら





コロナ禍で活躍する同窓生

87回生のボランティア 差し入れの輪

87回生 松本 八千代

2020年4月「永寿総合病院の看護師さんがぎりぎりの状態で懸命に働いています。何かできることはないでしょうか」添田英津子さんから厚女87回生グループラインにメッセージがありました。その頃、永寿総合病院では新型コロナウイルス感染症により院内クラスターが発生していました。

いつもの私であれば「大変だな」で終わってしまうところですが、今回は違いました。

2019年夫が慶應大学病院10B病棟に約4か月間入院しました。医療現場を30年ぶりに間近で感じた私は、「看護師さんの気持ちが安らぐ何かをしたい!」と思い、心ばかりの差し入れをさせていただきました。それをグループラインに投稿、差し入れの輪が広がりました。後日、永寿総合病院の看護師さんから大変うれしかったとメッセージをいただき、私たちも嬉しく思いました。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症に対応されている医療従事者の方々に深く感謝申し上げます。そして、忙しい中にも患者さんに寄り添い素晴らしい看護をしていただきました10B病棟のスタッフの皆様にもこの場を借りてお礼申し上げたいと思います。



〈87回生からの差し入れを配送する様子〉



〈住民からの応援垂れ幕〉

訪問看護 在宅医療の可能性

学4回生 松岡 喬子

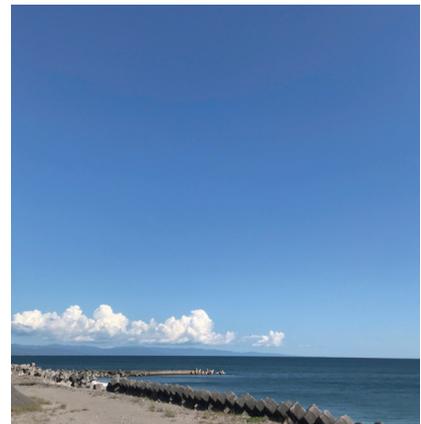
「遊ぼ〜!」コロナにより休校中の訪問先では、いつもと変わらない子供の声に元気づけられる。私は、高知県で訪問看護の管理者として日々奮闘している。小児看護、児童精神がメインの訪問看護では、対象が重症心身障害児や発達障害・精神疾患を持つ児童とその家族。

看護ケアが必要な病児だけでなく、生きていくための自立支援が必要な児童、虐待ケースなど、依頼内容は幅広い。

今年は、コロナ禍で一変した社会に適応できない障害児に対し、ストレスfulになった親の虐待を食い止めるため、家族看護が特に必須だった。在宅では、物品が足りない事よりも、子供達の居場所の無さで生まれる二次障害に日々深刻さを感じる。

休校になった事で、家庭内での閉鎖空間で起こる虐待が表面化しづらく、学校との連携が途絶える事で早期発見が難しいからだ。2児の母である今、「虐待」をする親の神経を疑っていたが、この仕事を始めて以降、親が追い詰められていく姿を日々側で感じ、やむを得ない状況が生まれることを知った。子供と親を守るため、学校や児童相談所、高知市等、外部との連携を通して子供の居場所を確保している。

看護師として、学校現場でプレゼンをする事など考えた事はなかったが、看護学を活かせる道を切り開く事で、看護師の可能性を最大限発揮できる場所はいくらでも存在することに気付き、貴重な経験を積みさせてもらっている事に感謝しかない。社会資源が限られた地域医療において、子供たちの笑顔を糧に、自分にできる看護をこれからも変わらず模索していく。



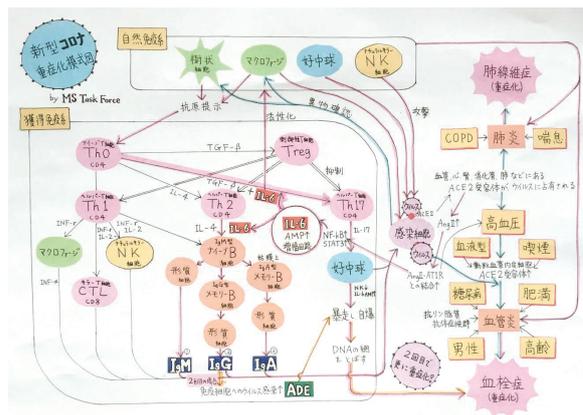
新型コロナウイルス感染症が流行し、欧米で、医療従事者の多数の感染と疲労困憊の様子と死亡が報道され、心を痛めていました。同じ思いの知り合いのアーティストに協力を呼びかけて、世界中の医療従事者に感謝を伝えるサイト (<https://arigato-love-peace.amebaownd.com/>) を作りました。その後、関東医科学生オーケストラ出身の先生方と繋がり、MS Task Force for COVID-19という団体を立ち上げ、調査研究や情報交換、啓蒙活動をするお手伝いをしていました。これは、先生方のご指導の元、私が作った新型コロナ重症化模式図です。

そんな時に、沖縄県の玉城デニー知事が、2020年8月2日の記者会見で、医療崩壊を防ぐため、看護師を急募の呼びかけがあり、すぐに電話しました。最初は、宮古島で8月12日からスタートする、軽症者ホテルの看護師として勤務することになりました。軽症者ホテルでは患者さんとお会いするのは、入所時と退所時だけで、あとは電話での健康確認のみでした。大変だったのは、沖縄の真夏の暑さの中、防護服で清掃をしないとイケないことでした。

宮古島軽症者ホテルの入所者がゼロになった頃、本島の県立病院は看護師を募集していました。私は次に、新型コロナ病棟で勤務したいと申し出て、9月1日から、沖縄県立中部病院の6西(新型コロナ専門)病棟に勤務しました。軽症者ホテルと違い、患者さんのベッドサイドで直接看護します。病室には必要最小限の出入りとなるため、患者さんも孤独感が増し、認知症の患者さんは、益々悪化しました。音楽療法を導入したかったのですが、機材の持ち込みもできず、見送りました。新型コロナの患者さんが減ってくると、だんだんと感染症区域が縮小になり、急性期混合病棟になりました。そのたびに、レッドゾーンだった所の大掃除です。混在している時は特に、一般の患者さんにうつさないよう細心の注意を払いました。

今は、完全に急性期混合病棟になっています。外科内科精神科、様々な患者さんが入院してくるので、日々勉強です。

現在は神戸の新型コロナ軽症者ホテルの立ち上げに関わり、大阪急性期総合医療センター併設の大阪コロナ重症者センターで勤務中です。



〈重症化模式図〉

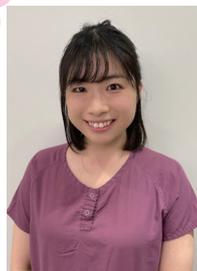


(筆者は右から2番目)

新会員挨拶 106名が新会員となりました

学16回生 葉袋 七彩

私が手術室看護師を希望したのは、学生の頃の手術室看護師が素早く器械を出す姿や、患者さんの状態をアセスメントする姿を見て憧れを抱いたためです。私は今年度は主に器械出し看護師として幅広い症例を担当しています。勉強量は多く、また、手術は患者さんの命を左右するため高い集中力を必要とします。ですが、上手く器械を出せた時は達成感があります。頼りになる先輩方から支援を得ながら、日々やりがいを持って看護を提供しています。



学16回生 稲森 彩華

学生から看護師と立場が変わって、責任の重さや緊張感に不安や戸惑いがありますが、先輩看護師の指導のもと患者さんと関わっていく中で、自分の成長を実感し、少しずつ自信をもって看護を提供できるようになりました。これからも一つ一つの援助に根拠をもつことや患者さんや家族とのコミュニケーションを大切にすることを忘れずに、ベストな看護を提供できるよう頑張りたいです。





コロナ禍の看護医療学部

新型コロナウイルス流行禍での学部の様子

87回生 添田 英津子

2020年春、本来でしたら新生を迎えオリンピック・パラリンピックを前に、華やかな春学期となるはずでした。しかし、感染症の流行状況により、大学もその対応に追われることとなりました。看護医療学部では、武田祐子学部長の指揮のもと、IT委員の教員が手腕を発揮し、オンライン講義の準備に取り掛かりました。学校の一角が「スタジオ」と呼ばれるようになり、講義の録画や配信が行われました。

講義ができるようになりましたが、難渋したのは演習や実習、テストでした。演習については、春学期の後半に行えるよう日程を調整したり、学校への入構手順を確認したり、慎重に準備しました。実習については、施設と学生の安全を最優先しつつ調整しました。テストは、一部はオンラインで行われましたが、レポートを課した科目もありました。

秋学期は、1・2・4年生は引き続きオンライン講義を受けていますが、3年生は臨地実習を行っています。信濃町では、臨床の皆様のご協力もあり、成人領域の実習は例年通りにできています。難しいのは、小児・母性・精神領域や高齢の方がおられる施設での実習です。実習を楽しみに学修を積んできた学生たちが、少しでも患者・ご家族・医療スタッフの皆さんと出会

えるように、パズルのように実習時間を組み替えて調整しています。

感染症がいつ終息するか、まだ先は見えません。しかし、今回経験したオンライン講義やパズルのような実習形態を通して、苦境においても「やればできる」「何とかなる」ということがわかったのは、私たちだけではなく学生だと思います。アフターコロナのトップランナーとして、成長して行って欲しいと願うばかりです。



〈スタジオ風景〉

コロナ禍の学生生活

学部2年生 増尾 芽依

サンタ企画とは、クリスマスシーズンに慶應義塾大学病院にて、患者さんやそのご家族、医療従事者の皆様に素敵なひとときをプレゼントすることを目的として行われる活動で、今年で24回目を迎えます。例年、音楽演奏や手作りのクリスマスカードをお届けしていましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により病院の訪問ができず企画の変更が余儀なくされました。そこで、今年は「動画配信」という新たな試みに挑戦しました。音楽演奏動画や折り紙動画、医療従事者の皆様へ向けたメッセージ動画などを作成し、院内のデジタルサイネージや病棟内のタブレット、電子カルテにてご視聴頂きました。慣れない作業に試行錯誤しながらも新しい挑戦に胸を膨らませ、患者さんに少しでも楽しい時間を過ごしていただけるように活動しています。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により授業形態も大きく変わり、オンライン授業が中心となりました。事例展開実習が主となった実習科目もありますが、画面越しに友達と会えることが嬉しく、これまでにはない程ディスカッションが盛り上がったこともありました。普段会うことができないからこそ、友

達と話すことの大切さをより一層感じる時間となりました。実習形態の変化や活動の制限はありますが「臨床現場に立つ未来への準備期間」と捉え、できることを模索しながら残りの学生生活を過ごしたいと思います。



〈サンタ企画〉

同窓会だより

短大9回生同窓会 ～卒後20年・慶應看護101年の時に～

短9回生 石原 洋子

卒後20年となる2019年12月1日、看護短大9回生同窓会を開催いたしました。これまで3年おきの初夏に同窓会を開催してきましたが、今回は冬の澄んだ空気の中、学生時代を過ごした信濃町に、全105名のうち25名が集いました。

まずは、第1部、鮎處での食事会。看護師、保健師、助産師、教員、編集者など各方面での活躍や、出産直後や子育て満喫中であったり、それぞれの今を分かち合いました。何をしているしていないではなく、目を合わせて微笑んだり、手を振りあったり、その仕草の中に変わらないお互いを祝福しあえる優しさや温かさを感じました。

第2部は、信濃町キャンパスツアー。関係部署、慶應病院現職メンバーの協力のもと、孝養舎(元短大校舎)、北里記念講堂、紅梅寮をはじめ、新病棟等の見学ツアーです。各所に慶應看護100年の記念パネルも掲示されており、懐かしく蘇る気持ちと共に、新たな時の始まりへの移り変わりを感じました。

同窓会後の年明け、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより私たちの生活は大きく変化しました。保健医療、生活の現場に立つひとりひとりの顔が浮かびます。新旧を超え、同じ学びを共にした仲間存在に感謝すると共に、今この瞬間、それぞれの力になりあえていたらいいなと願っています。



厚生女子学院7回生同窓会(還暦クラス会)

進二7回生 一二三 公子

卒後厚女7回生は、5年毎に東京でクラス会を開催しています。今回は九州組2名がお世話役となり、2019/11/14～2泊3日の還暦クラス会を大分で開催しました。東京を離れての試みでしたが、参加者9名で貴重な時間を過ごすことが出来ました。

1日目は、由布院の金鱗湖近くの“ななかわ”集合、今時の慶應グループラインを駆使し再会、見た目の変化は否めませんが、中身は昔と変わらずで、すぐに学生時代にワープしました。「還暦クラス会」の企画で、美味しい食事と温泉に記念品まで頂きました。歳を重ね早寝早起きが習慣となり、用意したお酒を飲む機会もなく朝を迎えました。2日目は由布院湯の壺

街道を散策後、別府で地獄巡り観光、“杉の井ホテル”でバイキングと棚湯、3日目は夢の時間から目覚めそれぞれの地へ帰宅となりました。紅葉と朝霧と温泉と楽しい一時でした。次回は“函館”の地で、ウィズコロナ時代の旅行とクラス会を予定しています。



2020年度紅梅会役員・委員

会長	茶園 美香 (66)	研 修	藤原 聡子 (学10)	準 備	赤木 紀子 (短9)
副会長	☆添田 英津子 (87)		☆高山 実幸 (学13)		古瀬 真理子 (学5)
書 記	内藤 理恵 (短7)	編 集	松山 絵莉香 (学14)	役員推薦	大和田 紗代 (学12)
	☆神尾 有佳 (短10)		◎滝花 亜理沙 (学8)		◎吉安 麻耶 (短9)
会 計	☆田村 紀子 (学1)		浦口 紘子 (学3)	ホームページ	☆秋本 かやの (学11)
	梶川 幸季 (短6)		☆田中 美久子 (学12)		☆平田 万智 (学11)
会計監査	☆白石 綾子 (短6)		船田 茉佑 (学12)	紅梅会事務	◎加藤 梓 (学12)
	上田 優子 (短12)		鎌田 春菜 (学12)		櫻井 純子 (学2)
研 修	立川 臣子 (70)	☆井上 実咲 (学13)	◎加藤 未奈 (学10)		
	◎小柳 淳 (学4)	☆江川 成美 (学14)	☆石川 恵理香 (学10)		
	天野 秀基 (学5)	◎江河 都美 (84)	☆加藤 未奈 (学10)		
	田中 翔太 (学9)	新藤 香織 (短9)	浅田 頼子 (68)		

(): 卒業回生 ◎: 委員長 ☆: 新役員・委員

紅梅会事務局よりお知らせ

会報はメール便でお送りしております。住所・氏名等を変更された時は、必ず事務局までご一報(郵送・FAX・TEL)下さい。不在の場合は留守番電話にメッセージをお願いします。

事務局は下記の曜日に開室しておりますが、都合によりお休みをいただくこと、会議により曜日を振り替えることもあります。

また、昨年10月より事務局は在宅ワークとなっております。3月まではこの状態を継続いたします。電話は浅田宅へ転送されますので、いつも通りご利用下さい。今後コロナ感染拡大の状況を見て通常業務に変更いたします。

事務局在室時間: 月・木曜日 13時～17時
 長期休み: 夏休み8月、年末年始2週間程度
 直通電話・FAX: 03-3341-8116

68回生 浅田 頼子

「特選塾員推薦」受付中

2001年4月から今までに262名の方が紅梅会推薦により特選塾員とられました。推薦をご希望の方は右記の項目を明記して、紅梅会事務局に郵送またはファックスでお送りください。なお不明なことは紅梅会事務局にお問い合わせください。

1. 氏名・ふりがな・生年月日
2. 現住所・電話番号
3. 回生または卒業年月
4. e-mail
5. 学歴(高校以降)
6. 経歴
7. 現職(役職)

訃報			2020年12月31日現在		
21回生	公森 せつ (旧姓近馬)	2020年6月22日	38回生	大河 博子 (旧姓山本)	2020年4月13日
22回生	林 世美子 (旧姓平出)	2019年9月14日	46回生	池谷 好子 (旧姓円山)	2019年11月10日
24回生	野崎 千代 (旧姓山中)	2020年3月1日	62回生	九鬼 久子 (旧姓山田)	2020年2月16日
32回生	大竹 政子	2020年12月4日	62回生	原 美貴子 (旧姓今田)	2019年1月31日
33回生	井上 とよ子 (旧姓高橋)	2020年4月9日	77回生	森 昭子 (旧姓成毛)	2018年8月25日

編集後記

コロナ禍で各々が大変な状況にも関わらず、皆様から多大なるお力添えを賜り、第111号会報を発行することができました。日本だけでなく、海外でも活躍されている卒業生の活躍を知ることができ、改めて慶應看護の卒業生であることを誇りに思います。まだまだ大変な状況が続きますがご健康にお気をつけください。

編集委員長 学8回生 滝花 亜理沙